

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2019年3月1日
(No. 93)

2019
*
3月

NPO法人エコシティ志木
代表理事 天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>



写真：天田 眞

志木につらなる川の風景 (21)

新河岸川 (渋井水門と新河岸川放水路)

新河岸川を富士見市・ふじみ野市と遡り、さらに左岸側が川越市に入ったところの左岸堤防にある水門は、新河岸川の洪水を荒川に流す渋井水門。水門の向こう側は新河岸川放水路で、約 1.2km 下流で荒川の旧流路であるびん沼川に繋がっており、びん沼川は約 3km 下流で南畑排水機場に達し、洪水はここで荒川に放流される。びん沼川の右岸には「びん沼自然公園」があり、川に沿った部分はヨシやオギの茂る緩やかな高水敷になっていて、川と一体として「びん沼調節池」として位置付けられている。渋井水門のゲートは現在は 1 門だが、これを増設し 2 門にする工事が始まろうとしている。

(天田 眞)

「県民参加生き物モニタリング調査」

この調査は、埼玉県が、県内の自然環境保全活動団体に参加を募り、県内の生物の生息状況を調査しデータベース化を図ることを目指したもので、2009 年度に開始し、10 年後の 2018 年度を持って終了となりました。初年度は 14 団体、その後は毎年 30～40 団体が参加しました。事業全体を受託した「NPO 法人自然観察指導員埼玉」の企画・指導のもとに、7 年次までは各団体の活動フィールドで、指定された外来種や絶滅危惧種などについての調査を行いました。

8 年次目の 2016 年度からの 3 年間は、「侵略的外来生物モニタリング調査」として、対象を外来生物に絞り、調査場所は広く県内の状況を反映できるように、全域を約 1km 四方に区切った区画から、毎年新しい区画で行うこととされました。当会では志木市を中心に隣接の朝霞市・富士見市・新座市・所沢市・三芳町の一部を含み、年間 8 区画、3 年で 24 区画について調査を行いました。対象種は植物 126 種、動物 22 種で、特に植物については 1 回平均 26 種を記録しました。

●2016 年度には 3 団体に「外来生物防除モデル事業」として、防除手法とその効果を検証するための防除試験の実施が依頼され、当会では、いろは親水公園のカヤ原でオオブタクサについて試験を行いました。



オオブタクサ防除試験区画づくり

2m 角の区画を 3 か所設け、「対象種のみ全て抜きとる」「全ての草を地表面で刈り取る」「何もし

ない」について、毎月の変化を測定しました。ところが、8 月の台風の水深 4m 程の水流に襲われ、全ての草が倒伏・流出・枯死してしまい、試験は中途半端で終わってしまいました。

また、この年の中間報告会の中では、当会の長年にわたる外来植物（オオブタクサ・アレチウリ）駆除の活動と今回のカヤ原での試験について報告を行いました。

●2018 年度には、クビアカツヤカミキリについての特別調査も行ないました。

本種はサクラなどのバラ科樹木を好み、幼虫が幹の中を食い荒らし枯らしてしまうカミキリムシで、特定外来生物に指定されています。埼玉県では 2013 年から、北部の深谷・熊谷・行田・羽生・加須と、東部の越谷・草加・八潮の各市で確認されています。サクラは各地で大量に植樹されていることから、本種が侵入・繁殖すると被害が甚大になることが予想されるため、埼玉県環境科学国際センターを中心に調査・防除活動が始められています。

調査は、根元に褐色のカリントウ状の木くずがあるか等を確認しました。当会では 7 月 2 日に柳瀬川沿いの 185 本、7 月 9 日に新河岸川沿いの 152 本のサクラを調査し、全て生息は確認されませんでした。

●一連の調査期間には、外来生物についての情報提供や学習の機会も持たれました。2017 年の中間報告会で行われた県内のタンポポについての報告は興味深いものでした。

従来から、タンポポには在来種（カントウタンポポ）と外来種（セイヨウタンポポ）があり、総苞が反り返るのがセイヨウタンポポと言われていましたが、実際には交雑種が多数あり、県内で既に 11 種類が観察されていることの報告があり、生きもの図鑑を制作中の当会としても参考になる情報でした。

（天田 眞）

柳瀬川のあらまし（7）

志木大橋から富士見橋へ

志木大橋左岸下流側から流入するのは、三芳町竹間沢のこぶしの里などの崖線下からの湧水を集めた旧山下用水。柳瀬川に流入する傍らには、水田への揚水施設の残骸と『針ヶ谷樋管 昭和九年三月竣工』と彫られた石造の排水樋管が打ち捨てられています。その針ヶ谷の水田は今では耕作放棄地になっています。志木大橋から東上線までの河道は直線で、水際はコンクリートで固定されています。

東上線から富士見橋にかけては右にカーブし、流れは左岸堤防に近寄り、右岸には砂礫の堆積ができ、また、高水敷の水際は土のままです。富士見橋の付近は堤防間隔が狭く、橋の架け替えの際は左岸の堤防を少し外側にずらすはずですが、また、富士見橋の左岸には橋から真っ直ぐに進む計画道路があり、近いうちに事業が始まるようです。

富士見橋から高橋へ

富士見橋下流左岸の通称『水谷田んぼ』は柳瀬川沿いの大規模な水田としては唯一残っているもので（小規模な水田は最上流付近にもある）、イタチやキジが棲んでいます。大分以前から開発計画があり、しばらく停滞していましたが、最近になり動きが出てきたようで、数年後には水田が無くなりそうです。

開発計画と共に、柳瀬川の洪水を溜める『水谷調節池』が堤防に接して計画されていましたが、近年の水害多発を受け実施されることになり、設計や用地買収が進められています（面積 46,000 m²、貯留水量 70,000 t）。

柳瀬川は志木で急に勾配が緩くなるため、上流からの土砂が堆積しやすく、県では 2010 年の冬から、毎年場所を変えながら河床（低水敷・高水敷共）の掘削（浚渫）工事を行っています。2012 年の富士見橋から下流 400m の工事では、カーブの内側（左岸）に土砂が堆積し水際に草が生えていた部分を浚渫した際に、露出したコンクリート護岸を撤去しました。護岸があっても、いずれは土砂が堆積するわけで、安全上必要ないとの判断で、自然環境に配慮した『多自然川づくり』の考えを取り入れたものです。

高橋から栄橋・新河岸川へ

高橋付近から栄橋にかけては堤防がコンクリートの垂直護岸になりますが、水際を固めていないので、流れは蛇行しながら常に変化しており、川が活着しているのがわかります。ただ残念なことに、このエリアは、川の中を歩かないと立ち入ることができず、土砂の中には大量のごみが混ざっていますが長年放置されたままです。

柳瀬川の上流から志木まで、7 回にわたった連載を終わります。少し時期がずれていますが、表紙でも 15 回にわたって柳瀬川を取り上げました。まだ書き足らない部分もありますが、4 回のぶらり散歩と合わせて、この川のあらましを知っていただけたでしょうか。

（天田 眞）



水谷田んぼ



コンクリート護岸撤去工事

柳瀬川の美化活動に参加して

柳瀬川の美化活動は、志木市中学校前の河川敷にて毎月1回実施しています。

今回は、12月15日（5名参加）、1月19日（6名参加）の美化活動に参加しました。朝9時から30分間ゴミ収集を実施しておりますが、今回は寒い朝にもかかわらず大勢の方に参加して頂きました。

夏場と異なり、冬場にてゴミの量は比較的少なかったですが、相変わらず上流から流れ着いたゴミは多く、またポイ捨てのゴミもありました。ゴミの種類としてはプラスチック類が殆どですが、中にはジャージの上着もあり、何でこんなものを捨てるのか理解出来ないものもありました。

さて、最近話題となっている海洋プラスチックゴミ。特にマイクロプラスチックゴミは小さいので魚や海鳥が餌と間違えて食べてしまっており、生き物に対し悪影響を及ぼしております。

ひょっとしたら、マイクロプラスチックを食べ



[写真：青木 明雄]

た魚が食卓にやってくるかもしれません。また、海洋ゴミの約70%は陸域由来と言われており、益々川ゴミ対策が重要視されると思います。

（本間 敏文）

2月3日（日）志木の自然観察（冬）

柳瀬川の冬の野鳥を観察しました

立春前の2月3日「志木の自然観察（冬）～柳瀬川の野鳥～」に参加し、穏やかな日差しの下で野鳥観察を楽しみました。

当日の参加は14名、柳瀬川駅東口に9時半集合し村山快哉堂まで。ヒドリガモの群れに柳瀬川では珍しいアメリカヒドリ。対岸の水際の木にはアオサギがじっとしていました。富士見橋の信号を渡ると、河原にハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリがたくさん飛び交ってにぎやかです。志木中前にはカモのたくさんの群れ。ヒドリカモ、コガモやマガモ、優美なオナガカモもいました。イソシギや腹の黄色が美しいキセキレイも観察できました。桜の梢にカワラヒワが集団で止まり、鳴き声も美しい。志木の杜マンション前では、カワセミが一瞬川面を飛び去る姿を見かけました。ヒドリガモの群れにカイツブリ、擁壁に並んでダイサギとアオサギ。河原や中洲にいるイカルチドリは動くと石原から浮き出よう。カワウが羽を休めており、紫色を帯びた羽の光沢や



[写真：青木 明雄]

模様が美しい。オオバンは近頃見かける数が増えています。また、珍しくイタチが出没するのが見られました。この他カルガモ、シジュウカラ、ツグミなど鳥類合計では24種が見られました。

（鈴木 民雄）

志木の生きものの調査

12月2日
柳瀬川と
水谷田んぼ

河川敷、土手、田んぼ
約4kmを歩き調査。ホッ
プの近縁種カナムグラの
紫褐色の実、クコ、ノイ
バラ、カラスウリ、アレチウリ、ノブドウの実を観
察。猛暑に続く暖冬のせいか、アレチウリ、オオイ
ヌノフグリ、キュウリグサ、トキワハゼ、ナズナ、
イヌガラシ、スカシタゴボウ、オオジシバリ、ノゲ
シ、キツネアザミ等多くの季節外れの花々を確認。
ヒメムカシヨモギ、ハルジオン、ナズナ、タネツケ
バナのロゼットを観察。アキノノゲシのロゼットは
思わず声をあげるほど繊細で美しいアートでした。



写真 (青木 明雄)

1月20日
柏町・本町周辺



写真 (青木 明雄)

柏ふれあいの森、
館氷川神社、かしわ
公園、宝幢寺、けい

おうふれあいの森で、おも
に虫と樹木を調査。探究心
旺盛な小学生
たちとワラジ
ムシ、アオズ
ムカデ、ヒダ
リマキマイマ
イ、ジグモ等
観察。

ウメの枝にび
っしり付いて
いる何やら不
気味なもの

は、天田代表によると、集団で蛹になるアカボシ
テントウの蛹の抜け殻だそうです。近くにいた成
虫は、黒地にぼんやりとした一対の赤い星のある
テントウムシで、ウメ等の害虫タマカタカイガラ
ムシの天敵とのこと。

志木市で一番太い樹木という宝幢寺の“乳イ
チョウ”の“乳”と呼ばれる気根を間近で観察。す
っかり葉を落としたムクロジやセンダンの木には
たくさんの実が残っていて、青い冬空に映えてい
ました。

志木駅東口の銀行脇の植込みには、エノキの幼木
が何本も生えています。街路樹や電線をめぐらとす
るムクドリの群れが種子まきした結果のようです。

2月17日
新河岸川左岸
いろは橋・袋橋間周辺

好天ながら冷た
い風の中、河川敷、
土手、神社、公園、
旧堤防を散策。お

なじみになったハクセキレイ、カワラヒワ、ヒドリ
ガモ、マガモ、オオバン、カワウ等の野鳥やヒマ
ヤスギ、マテバシイ、ムクノキ、アカシデ、ヒノキ、
サワラ、シャリンバイ、フジ等の樹木を確認。この
時期、寒さや乾燥に耐え、全ての葉に光があたるよ
う、地面に密着して放射状に根生葉を広げるロゼッ
ト。ヘラオオバコ、キュウリグサ、ユウゲショウ、
ウラジロチチコグサ、オニタビラコ、ブタナ、それ
ぞれに独特で魅力的です。キツネアザミのロゼット
はまるでレース編みのドイリーのようです。

スイバのロゼットが寒さで紅葉し、葉の基部が矢じ
り形であること、メマツヨイグサのロゼットは赤紫色
の斑点がある等、学ぶことができました。

[庭野 恵子]



写真 (青木 明雄)



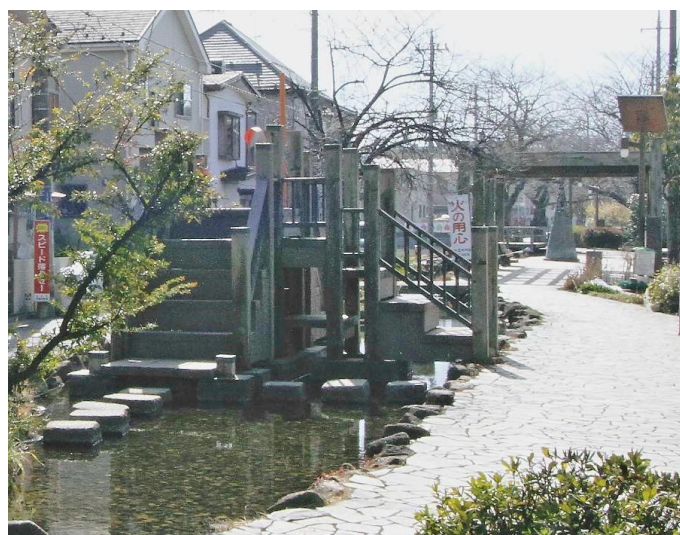
せせらぎの小径

今回は、せせらぎの小径といろは通りと新河岸川に囲まれた三角形の地域を散策しました。



せせらぎの小径は、幅はあまり広くありませんが、サクラの並木となっているのと水路が緩やかに蛇行しながら流れていて、ささやかながら水と緑の空間を提供してくれています。いろは通りから歩いていくと、トイレがあり、しばらく行くとベンチもあります。せせらぎの小径を整備する時には、既に予定されていたのか和光富士見バイパスが横断するあたりには、水路がありません。いろは通りに向かう側の予定地は、高い色褪せた土木工事現場や産業

廃棄物の保管所のような鉄板に囲まれていて、放置自転車の保管場所になっています。反対側の緑地となっている景観からすると、とても残念な形となっています。ここには、ベンチがいくつか置かれていますが、この鉄板を眺めるような向きになってしまっていて、ゆっくり眺めを楽しんで座れる場所ではありません。緑地の確保に至らなくても、せめて囲の鉄板に、緑豊かな風景を描いておくとかの工夫があるかないかで、まちの価値は大きく違ってくると思います。更に進むと、小径の両側はサクラ並木となっていて、春が楽しみです。その先には、アジサイが植わっていたり、水路に



せせらぎの小径から
いろは通りと柳瀬川までの
自然を訪ねて！

NPO法人エコシティ志木事務局長

青木 明雄

橋が架かっていたり、しだれ柳が水路に垂れ下がっていたりや変化があるので、散策を楽しめます。また少し行くと、水路の幅が広がり、池のようになります。中には、飛び石を渡って、階段のある山型の小さな橋を渡れます。その先には、ヨシズ張のような日よけ棚があり、下には、ベンチがいくつかあります。ここは、座って眺めているのも楽しそうです。木々が緑で覆われるころには、鳥が水を飲みに訪れ、さえずりも聞こえて来そうです。また少し行くと、ほんのちょっとした広さではありますが、水路の上にデッキが張り出した川床のようなものがあります。まるで、全体が大きな箱庭といった感じで楽しい小径です。この小径は、最後には、新河岸川の旧堤防に出ます。せせらぎの小径の下には、大きな用水路があり、その上を流れるせせらぎの小径の水路は、手前の交差点で終了します。下を流れてきた用水路の水は、旧堤防の土手を潜り、わずかな距離ではありますが、新堤防までは水の流れが見え、新堤防を潜り新河岸川に注いでいます。せせらぎの小径から、排水処理場の横を通り、現在の新堤防にぶつかっています。惣囲堤の一部となっている江戸時代の旧堤防を上流側に行くといろは親水公園三日月湖ゾーンに出ます。この三日月湖は、新河岸川が



蛇行して流れていた時の名残で、現在の堤防と旧堤防の間に池のような形で残っています。現在は、田んぼとして使われています。三日月湖の土手にある広場には、健康遊具が設けられています。三日月湖の外側にも広い田んぼがあり、せせらぎの小径の通りまで広がっています。

もう一度せせらぎの小径に戻って、水路が終わった交差点を、新河岸川に並行していろは通りまで抜けている道を散策してみます。三日月湖を左手に、上流側



どんぐり公園

側に行きます。三日月湖側には、新しい住宅が沢山建っていて、小さな住宅地になっています。この住宅地の中

には、どんぐり公園という小さな児童公園も作られています。少し行くと、右手には、かなり広い農地が広がり、隣接する農家には、立派な水塚があります。左側にも農地が残されていて、すぐ先にも大きな木に囲まれた農家があります。その先は、道の両側に農地が広がっていますが、新しい住宅も立てられています。広い田んぼの低地には、土盛作業が行われている最中で、周りには分譲地販売の幟旗が、沢山建っていました。今回の散策地域の中では、緑地が多く残っているところですが、なくなりつつある状況です。その先で、いろは親水公園の富士下橋に繋がる道と交差しています。この通ってきた道と新河岸川の旧堤防との間には、もう一つ狭い道があります。農地の間を通っている道ですが、最近この道に沿っても住宅が建ち始め、売り出し中の家がありました。更に、いろは通りに向かって進むと、右手に狭い農地があり

せせらぎの小径

いろは通り

旧堤防



ます。手前左手ですが、通りに面しては家が建っていて見えませんが、家の裏に広い農地があります。いろは通りまで出て、左に曲がり、いろは橋に向かって歩き、信号の手前の細い道を折り返して歩いていきます。この道は、旧堤防に沿った道で、以前は、車もやつの道でしたが、住宅が大分増えて、道も広くなりました。更に行くと、左右に農地があり、秋には、いろは親水公園の旧堤防からも、この田んぼで収穫した稲をはぎ掛けにしている光景を見ることができ



ます。更に進むと、旧堤防との間にも家が増えて、緑地も少なくなりました。最後は、富士下橋からの道にぶつかります。

西原ふれあい第三公園 斜面林の手入れに参加して

西原ふれあい第三公園は、公園部分と斜面林とから成っています。月2回の活動は、公園部分のゴミ拾いから始まります。冬は、比較的ゴミが少ないです。びっくりするゴミの代表は、ウイスキーの瓶と紙オムツです。捨てては悪いという意識があるせいか、いつも茂みの中とか、見えにくい所に捨てられています。その為、拾う方は大変なのです。その後、今の季節は、落ち葉集めです。落ち葉を集めて、大きな袋に入れて、落ち葉囲に運びます。落ち葉囲は、伐採した枝や竹などで、囲が作ってあります。とてもステキです。公園内で腐葉土にし、循環させています。人が捨てたものの以外、ゴミとして出すものはありません。

落ち葉集めは、私の大好きな仕事の一つです。落ち葉の触れ合う音、落ち葉の軽さ、うまく言葉で表せません。実際にさわって、実際に聞きに来てください。

落ち葉を集めているときに茶色い中に緑のものが紛れていました。なんとも言えない緑色です。



[写真：青木明雄]

よくよく見ると何とカメムシです。こんなチャームなカメムシ、見たことがありません。私の中のカメムシに対する偏見が覆されました。名前は、ミナミアオカメムシ。いろんなことに出会える西原に遊びに来てください。（竹野延枝）

いろは親水公園 こもれびのこみちの手入れについて

“こもれびのみち”は敷島神社裏の斜面下の遊歩道です。手入れ作業は遊歩道と川の下流方面に伸びた500メートル程の斜面林を対象としています。作業は遊歩道にはみ出した枝や草の剪定、ゴミ拾い、斜面林の常緑樹の伐採を行っています。

私が参加を始めた6年ほど前は、斜面林の大半はシュロ、シロダモなどが生い茂る暗い林でした。そのため布団、家電、小型家具や様々なゴミが投棄されており、年に数回、エコシティ会員が集めたゴミを搬出する際には小型トラックの荷台がいっぱいになるほどでした。近隣に住みそれを見ていた私も手入れに加わったものです。

近年は常緑樹の伐採も進み、シュロの成木は完全に除去されました。シロダモやアオキの伐採も続けており、明るい落葉樹の林へと移行しつつあります。この結果、布団などの大型ゴミの投棄はほぼ無くなり、缶なども減ったため、収集ゴミの搬出量は（感覚的ですが）5分の1程となりました。課題と今後の見通しとしては、竹を加えての常緑樹などの生育が早いため、常に伐採を継続することです。2年間手入れをしなければ、アオキなどの低木が生い茂り、



[写真：青木明雄]

再び地面が見えなくなり、ゴミ投棄の増加が懸念されます。

本稿はゴミ問題を述べましたが、実際の手入れ作業では天田さんが小動物、昆虫、草木の解説をしてくれており、身近な自然観察会ともなっています。多くの方のご参加をお待ちしています。

（山崎 祐二）

① ビジョオニグモ♀ 12月2日

柳瀬川の生きもの調査の途中、左岸旧堤防で。(卵越冬) [天田 眞]

② クビキリギス 12月3日

西原斜面林の落ち葉の中で。(成虫越冬) [天田 眞]

③ ツヤアオカメムシ 12月27日

西原斜面林で。(成虫越冬) [天田 眞]

④ ハラビロカマキリ 1月9日

柏町の志木の杜マンション脇の寒風の中で。(卵越冬) [天田 眞]

⑤ ホソヒラタアブ 1月15日

市民農園で収穫したハクサイにいた幼虫が羽化。
(成虫越冬) [天田 眞]

⑥ キシノウエトタテグモ 1月20日

生きもの調査の途中、館の氷川神社で。(成体越冬) [天田 眞]

⑦ モズのはやにえ (カエル) 1月27日

こもれびのこみち手入れ作業中に。[天田 眞]

⑧ ツグミ 2月16日 柳瀬川 [青木 明雄]

⑨ カワセミ 2月16日 柳瀬川 [青木 明雄]

⑩ オナガガモ 2月16日 柳瀬川 [青木 明雄]

⑪ キジ 2月22日 水谷たんぼ [青木 明雄]



① ビジョオニグモ♀



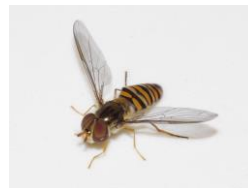
② クビキリギス



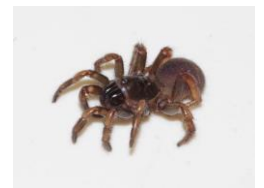
③ ツヤアオカメムシ



④ ハラビロカマキリ



⑤ ホソヒラタアブ



⑥ キシノウエトタテグモ



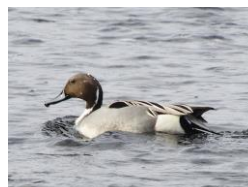
⑦ モズのはやにえ



⑧ ツグミ



⑨ カワセミ



⑩ オナガガモ



⑪ キジ

環境

ひとくちメモ (51) 伊藤 智明

「路上のカエルは交通騒音で動きが鈍くなる」

北海道大学院及び国立環境研究所の研究グループが、道路を模した人工的な裸地上では、交通騒音によってニホンアマガエルの夜間の移動分散距離が短くなることを明らかにしました。

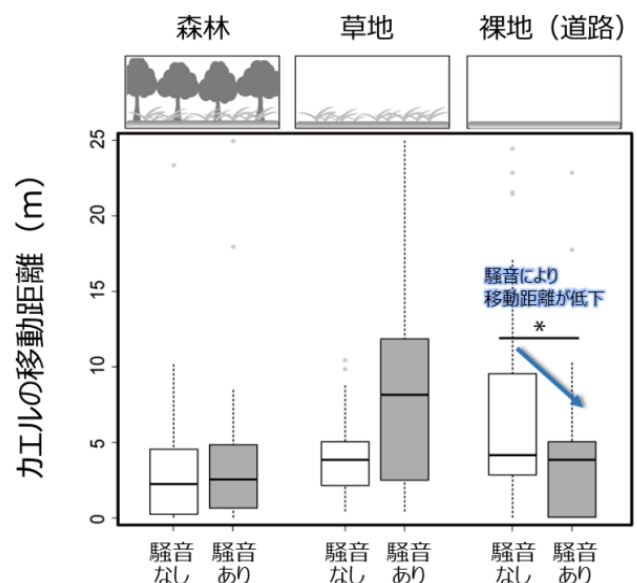
都市に存在する3種類の土地利用(森林・草地・道路を模した人工的な裸地)で、ニホンアマガエルが一晩あたりの交通騒音による移動距離への影響を実験的に調べた結果、森林と草地では交通騒音による移動距離への影響は見られなかったのが、道路を模した人工的な裸地では交通騒音による移動距離が短くなることが明らかになったそうです。

これらの結果は、交通騒音による動物の移動分散への影響が、土地利用ごとに異なることを示唆しており、人工的な裸地での交通騒音による移動分散の遅延は、ニホンアマガエルが道路の横断に要する時間が長くなることを意味しているため、交通騒音が両生類の主要な減少要因の一つである道路上での轢死を助長している恐れがあるとのこと。

出典：北海道大学 プレスリリース 2018年12月26日

「路上のカエルは交通騒音で動きが鈍くなる～交通騒音が両生類の轢死を助長している恐れを示唆～」

https://www.hokudai.ac.jp/news/181226_pr.pdf



☆会員状況

2018年度更新済(2月26日現在)

正会員(個人) 46 内新入会 2

正会員(団体) 2

賛助会員 2

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★2019年度の継続更新を、引き続きよろしくお願い致します。

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティー協議会

志木市社会福祉協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川流域川づくり連絡会

柳瀬川流域水循環再生市民懇談会

彩の国南西部地域NPO連絡会

川の国応援団

埼玉県生物多様性保全活動団体登録

彩の国みどりのサポーターズクラブ

志木市公園美化活動会

志木市放課後子ども教室りんくす

志木市教育サポートセンター

市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ

NPO法人エコシティ志木

<http://kappa-no.net/eco-shiki/>

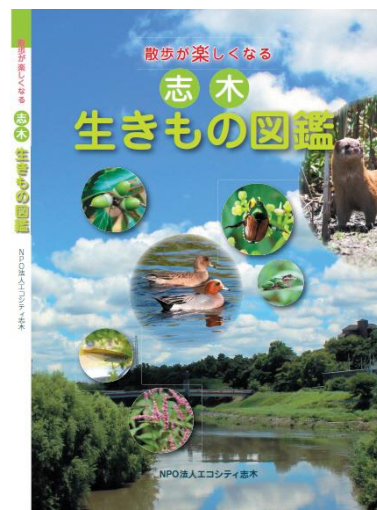
志木まるごと博物館河童のつづら

<http://kappa-no.net/>

<『生きもの図鑑』作業状況>

三校版ができました 2019年度中に刊行します

二校版のレビューが終わり、三校版ができました。前回にもご説明をしましたが、Aチーム分は、実質二校版になります。二校版が実質初めての図鑑イメージでの印刷となったため、印刷レイアウトを見ての手直しはかなり発生しました。樹木については、全面的に説明文を短くして、写真が大きくなるようにしました。また、花や実の写真については、時期に合わせて撮り直したものに差し替えをしました。昆虫等については、仲間の種がページ跨りにならないように、掲載順序の組み直しや、レイアウトの見直しを行いました。Bチーム分(魚類・鳥類など)については、見直しとなっていた写真の差し替えや、絶滅危惧種に関わる記載を最新の内容に見直ししました。Cチーム担当のチョウについては、幼虫の写真を追加したことによるページ割り当ての変更の確認や、や野草のページの余白スペースへの写真追加や種の追加を行いました。用語の統一としては、植物を食べる表現の食草、植樹、食は、全て食草とすることにしました。2月24日(日)の全体会議&チーム別会議で、3校版の配布を行い、各チーム別での確認作業に入りました。まだ不足の写真もあり、時期まで待たなければならないものもありますが、今回の三校版でのレビューを行い、2019年度中には刊行しますのでご期待ください。



バッタ目の中で、以前バッタ科を取り上げましたが、今回はコオロギ・キリギリスなどの仲間を紹介します。

河川敷では夏から秋にコオロギの様々な鳴き声が聞こえます。翅をすり合わせて鳴くのは雄だけですが、草原の中で姿は見えず、近づくと鳴きやんでしまい、姿の確認は難しいです。エンマコオロギは一番大きく、丸っこい顔を前から見ると閻魔様の様だと言われますが、鳴き声は「コロコロコロリー」ととっても優雅。ツヅレサセコオロギは中間的の大きさで、「リューリューリューリュー・・・」と長く鳴き続けます。他にハラオカメコオロギ、ミツカドコオロギなどがありますが、それぞれ顔の形や鳴き声が違います。マダラスズはコオロギと形は同じで大きさは半分位で、「ジーッ、ジーッ、ジーッ・・・」と鳴き続けます。

樹林や街なかの樹上で非常に甲高く「リーリーリー・・・」と鳴き続けるのは中国からの外来種のアオマツムシ。今や秋の鳴く虫の代表になっています。小型のカネタタキは低木や生垣の樹上にいて「チン、チン、チン」と小さな声で鳴きますが、建物内に侵入すると、かなりうるさいです。雌は翅が無く、雄も鳴くためだけの小さな翅です。ケラは草原や農耕地の土の中に棲み、前足はモグラのように土を掘りやすく特化しています。

キリギリス科は緑色でバッタに似ていますが触角が細長いところが違います。クビキリギリスは草原や林縁などに多く、褐色の個体もあり、口が赤いのが特徴です。成虫で越冬し、春から「ビ——」と鳴きます。ツユムシやササキリの仲間は草原に棲みますが、頭部の形が違います。

《コオロギとキリギリスの仲間》



エンマコオロギ♀ (コオロギ科)



ツヅレサセコオロギ♀ (コオロギ科)



マダラスズ♂ (ヒバリモドキ科)



アオマツムシ♂ (マツムシ科)



カネタタキ♂ (カネタタキ科)



ケラ (ケラ科)



クビキリギリス (キリギリス科)



ツユムシ (キリギリス科)



ウスイロササキリ (キリギリス科)

小笠原の旅

宇津木 美恵子



その 11 2代目おがさわら丸の最後の出航日の様子
(2016/6/26)

宿泊していた小笠原ユースホステル

一泊2食付 5000 円程度

全行程 21 泊、泊りました。(うち母島に 4 泊)

沢山の情報が得られ、素敵な仲間ができました。



① まずはユースホステル仲間で記念撮影



② 2代目おがさわら丸の最終就航と重なり、
見送りイベントもいつもより盛大に！
「ありがとう！おがさわら丸」の横断幕と
恒例の太鼓でお見送り



編集後記

◇生きもの図鑑も 2019 年度刊行となりましたので、志木の自然を訪ねての特集は、今回の号で一旦終了して、次回から 4 回に亘って生きもの図鑑についてお伝えしたいと思います。また、柳瀬川のあらましについても今回で終了し、新河岸川ぶらり散歩に併せて、新河岸川のあらましを次回からお送りします。(青木 明雄)

④ 見送り船はいつまでも追ってくる



⑤ 沖までもついてくる



⑥ 見送り船側から見た、去りゆくおがさわら丸



⑦ 島に残る人々が、見送り船から海へダイブ！
海面からも、さようならコール
島を去る寂しさがこみあげてきて、涙、涙・・・



エコシティ志木通信

第93号 2019年3月1日

〈発行〉

NPO法人エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田 眞)

URL <http://kappa-no.net/eco-shiki/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com